

大学におけるレピュテーション・ マネジメントへの大学ランキングの 活用の現状と課題について

第36回日本教育情報学会・IR研究会

令和2年8月30日（日）

高田 英一(神戸大学)

森 雅生(東京工業大学)

大石 哲也（東京工業大学）

本日の構成

1. はじめに
2. 先行研究の確認
3. 研究の方法
4. 大学ランキングの掲載状況
5. THE・WorldとTHE・Japanの比較
6. THE・World, THE・Japanごとの検討
7. まとめとおわりに

1. はじめに

- 厳しい競争環境にある大学としては、ステークホルダーの支持の獲得が必要
- そのための取組として、レピュテーション・マネジメント（以下，RM）が重要
 - RM：ステークホルダーによる認知の集積であるレピュテーション（reputation，評判）を高め管理する取組
- 大学におけるRMにおいて，大学ランキングは大きな影響があると言われているが，大学のRMへの活用の実態は不明
- 本稿では，日本の大学における大学ランキングのRMへの活用状況を調査し，その概要を報告
- なお，本稿は筆者らの個人的な見解にとどまることを申し添える

2. 先行研究の確認

- 大学におけるRMに関する先行研究
 - 国際的ネットワークの紹介（大石2019），大学ランキングへの対応の研究（廣瀬2018），研究大学におけるRMのあり方の研究（高田・大石2016），RMに対する大学の意識・実態に関するアンケート調査報告（高田他2019）等
- 大学ランキングに関する先行研究
 - 「評判が評判を生む」セルフ・フィーディングな性格等を指摘した間淵他(2002)，重視する評判の主観性，総合スコアやランキングの手法への批判とともに大学自身による宣伝へのランキングの活用等を指摘した小林他(2007)等
- 管見の限り，大学における大学ランキングのRMへの活用の実態の研究は見当たらなかった

3. 研究の方法

① 研究の基本的な視点

- RMの取組の有力なツールである大学のWebページに着目
- 大学が「自大学のランクイン」をWebページに掲載していることをもって、大学ランキングを「RMに活用している」ことの一つの事例と見なす
- 日本の大学の掲載状況を調査
 - 前提として、個々の大学において、大学ランキングの項目に関する取組（大学ランキングへのデータ提供等）が行われていると想定。
 - この取組の成果を大学ランキングの結果と見なす

3. 研究の方法

② 調査の対象

- 著名な3つの大学ランキング
- 作成主体
 - THE (Times Higher Education)
 - QS (Quacquarelli Symonds)
 - 上海交通大学 (Shanghai Ranking Consultancy)
- 形式：総合ランキング
 - 一般的には最も取り上げられやすい
- 年度：調査時点の最新版（令和2年3月時点）
- 対象地域：世界，アジア，日本
- 本研究の対象
 - THE・World2020, 同・ASIA2019, 同・Janap2020
 - QS・World2020, 同・ASIA2020
 - ARWU (Academic Ranking of World Universities)2019

3. 研究の方法

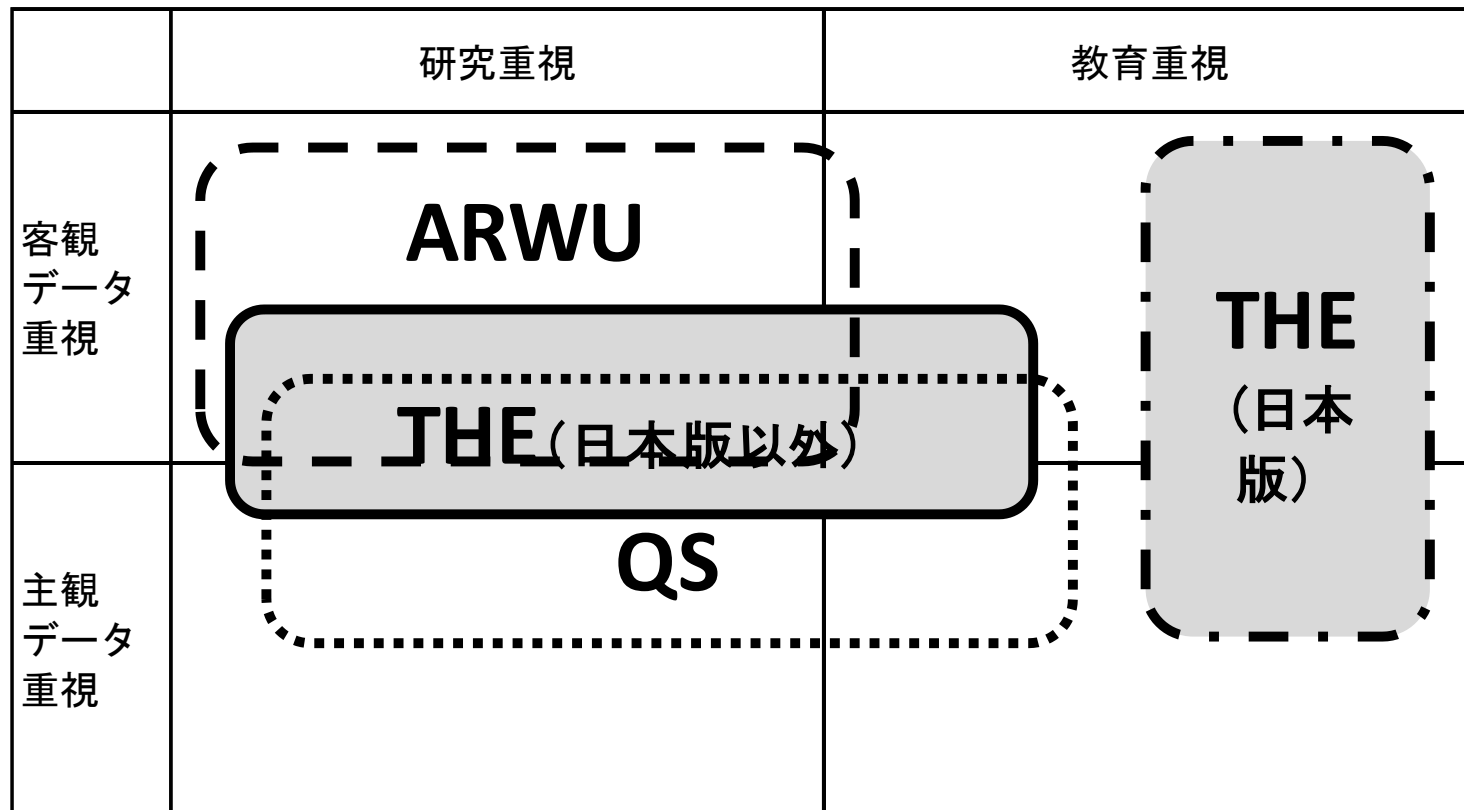
② 調査の対象

- ARWU
 - 2003年, 上海交通大学が作成を開始
 - ノーベル賞等の受賞者数等の指標, 高い水準の研究を重視
- THE
 - 2004年以降, QSとともにランキングを作成
 - 2010年以降はQSと離れて, ランキングを作成
 - QSよりも歴史があり, 権威が高いとみなされている
 - 研究と教育を指標とするが, 日本の企業と共同作成(2017~)する日本ランキングは, 教育重視
 - 客観データを比較的重視
- QS
 - 2010年からTHEとは別にランキングを作成
 - 研究と教育を指標とする点でTHEと共通
 - レピュテーションに関するアンケート調査という主観データを比較的重視

3. 研究の方法

② 調査の対象

図1) 各ランキングの特徴イメージ



3. 研究の方法

② 調査の対象

- 対象とする大学は，最新版（2020.4.27時点）の大学ランキングの一般公表圏内にランクインした日本の大学
- 対象とする 6 つのランキング合計662大学
 - 複数のランキング（最大6）にランクインした大学があることに留意

3. 研究の方法

③ 研究の手法

- 対象大学が、ランクインの事実を自大学のWebページ掲載している状況を調査
 - 調査期間：2020年4月27日-同年5月19日
 - 大学全学としての姿勢を確認する観点から、全学のWebページに限定
 - RMへの活用の確認の観点から、学外向けの内容に限定
 - 学内向けの会議・検討用資料や研究論文等は除外
- 大学の継続的な姿勢を確認する観点から、最新のランクインの情報だけでなく、過去のランクインの情報も掲載に含めた

3. 研究の方法

③ 研究の手法

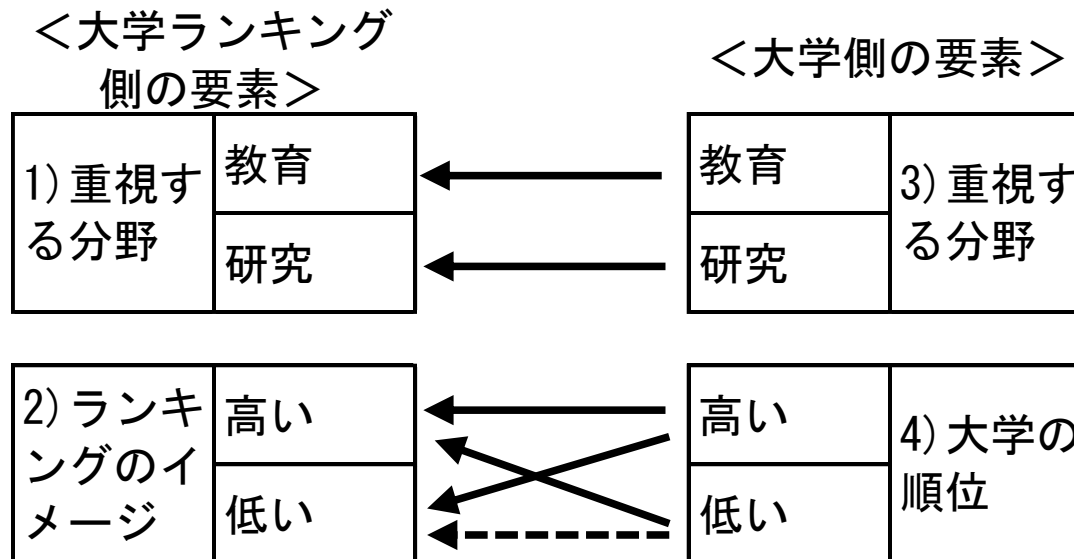
- 全ての大学が掲載している訳ではない（想定）
- 掲載率に影響を与える要素（想定）
 - 大学ランキング側の要素
 - 1)重視する分野
 - 2)大学ランキングのイメージ（権威，信頼性等）
 - 大学側の要素
 - 3)大学が重視する分野
 - 4)大学の順位

3. 研究の方法

③ 研究の手法

- 要素間の関係（想定）
 - 1)←3)の関係：大学は自らが重視する分野に合致する分野を重視する大学ランキングをRMに活用
 - 2)←4)の関係：大学は，大学ランキングのイメージが高い場合は，順位が低くてもRMに活用。他方，大学ランキングのイメージが低い場合は，順位が高い場合のみRMに活用

図2)RMへの活用に影響する要素

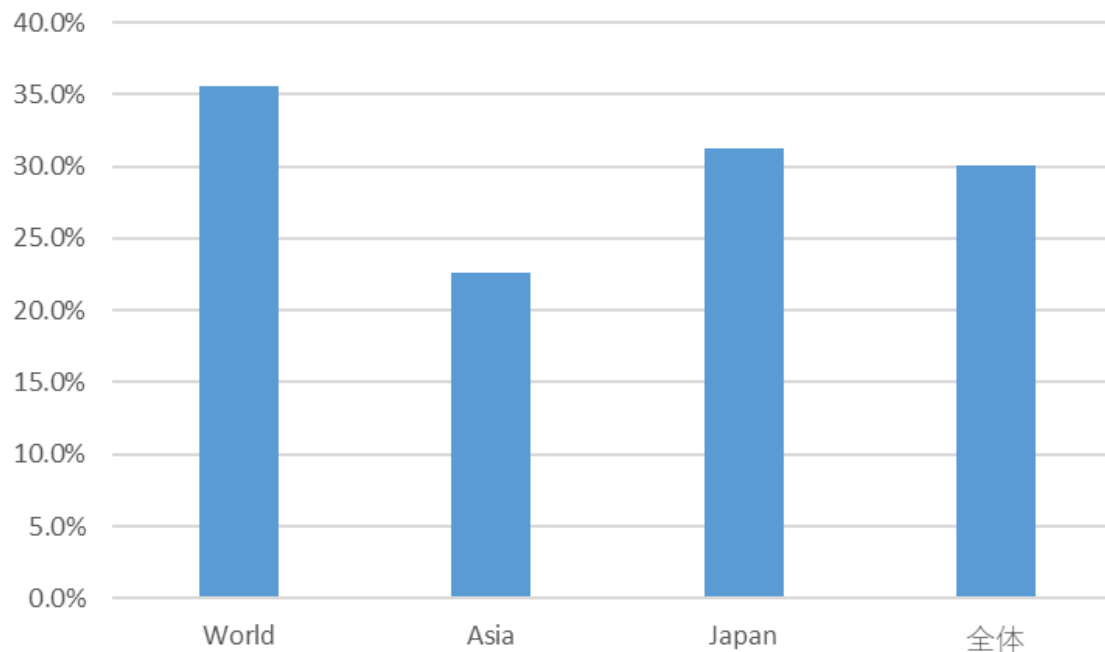


4. 大学ランキングの掲載状況

① 対象地域ごとの掲載状況

- 世界を対象とするランキングというイメージがWorldの掲載率の高さの要因の可能性
- 対象地域や比較大学になじみがなく、イメージが不明確な点がAsiaの掲載率の低さの要因の可能性

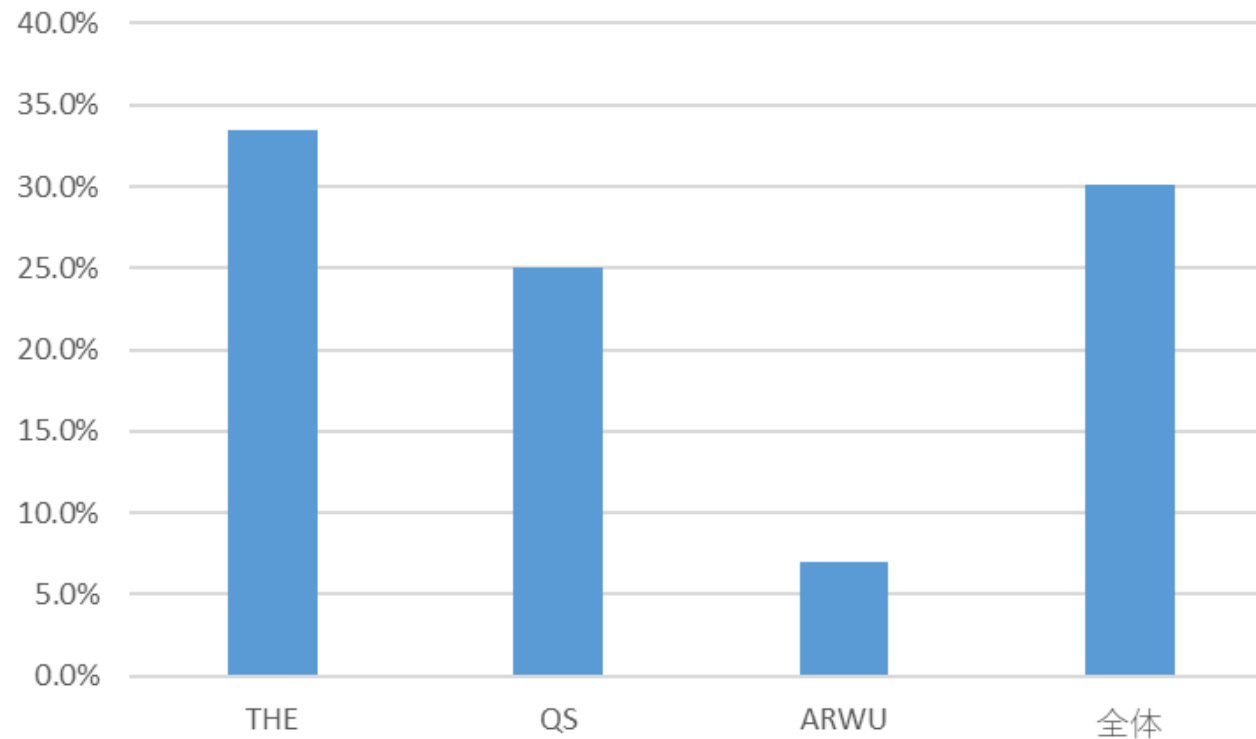
図3)対象地域ごとの掲載状況



4. 大学ランキングの掲載状況

② ランキングごとの掲載状況

図4) ランキングごとの掲載状況



4. 大学ランキングの掲載状況

② ランキングごとの掲載状況

- ARWU
 - 指標の高い水準の研究を重視する大学が少数であることが掲載率の低さの要因の可能性
- QS
 - 指標の傾向はTHEと共通
 - 主観データの重視やTHEよりも歴史が浅いと思われることがランキングのイメージに影響し、その結果掲載率が低い可能性
- THE
 - 客観データの重視や最も歴史のあるランキングとみなされていることがランキングのイメージに影響し、その結果掲載率が高い可能性
 - 近年、教育関連企業と連携して日本版のランキングを作成、学校に配布されていることも影響した可能性

5. THE・WorldとTHE・Japanの比較

① 対象大学

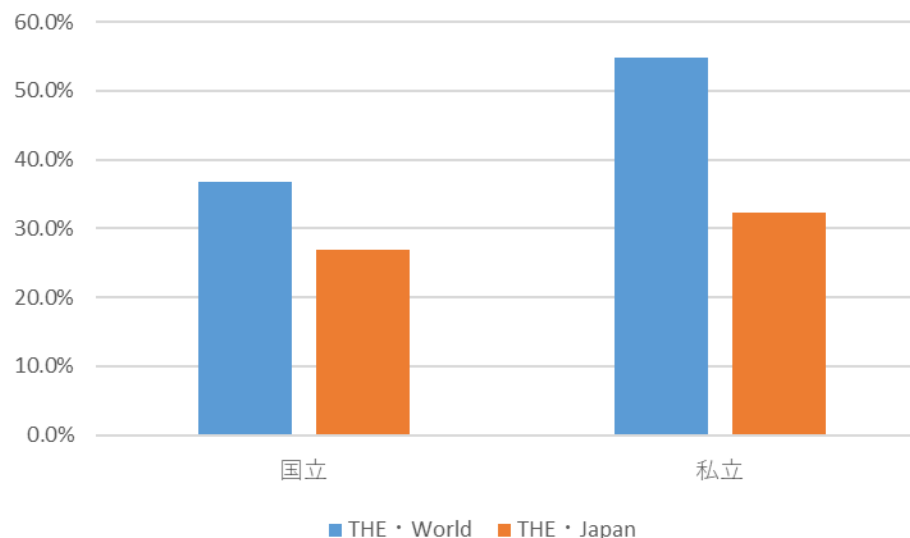
- THE・WorldとTHE・Japanの一般公表圏内にランクインした大学を対象
- THE・Worldは国立（57）が最も多い
- THE・Japanは私立（170）が最も多い
 - 重視する分野がTHE・Worldは教育と研究に対して、THE・Japanは教育に限定
 - 国内では私立の数が多いこと

5. THE・WorldとTHE・Japanの比較

② 設置形態ごとの掲載率

- 国立・私立とも，THE・Worldの方が高い
 - 世界を対象とするランキングのイメージの高さ，THE・Worldにランクインする私立には研究も重視する大学が多いことが要因の可能性
 - 私立は，国立よりもステークホルダーへのアピールを重視するため，重視する分野よりも，ランキングのイメージの高さを重視した可能性

図5) 設置形態ごとの掲載率



5. THE・WorldとTHE・Japanの比較

③ 順位ごとの掲載率

- 全体的にTHE・Worldの方が掲載率が高い
 - THE・Worldは、最も低い順位1000位+でも30%以上
 - THE・Japanは、上位でも掲載率が20%以下あり
 - THE・Worldのイメージの高さが要因の可能性

図6) THE・World順位別(国私立)

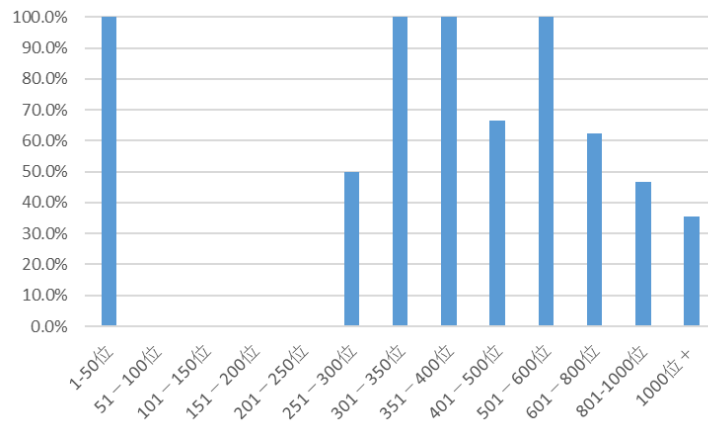
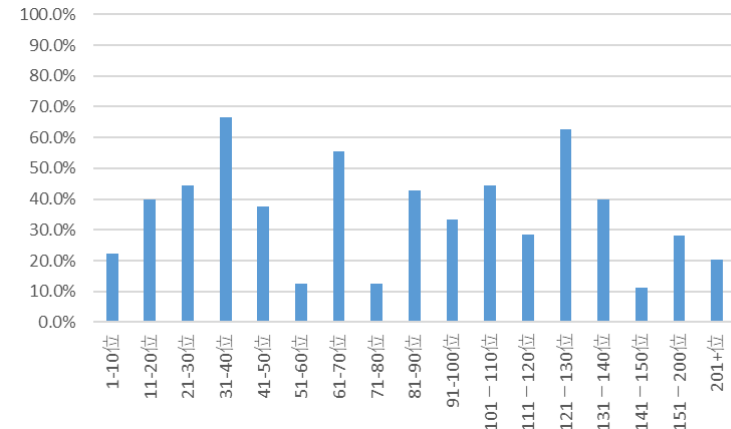


図7) THE・Japan順位別(国私立)

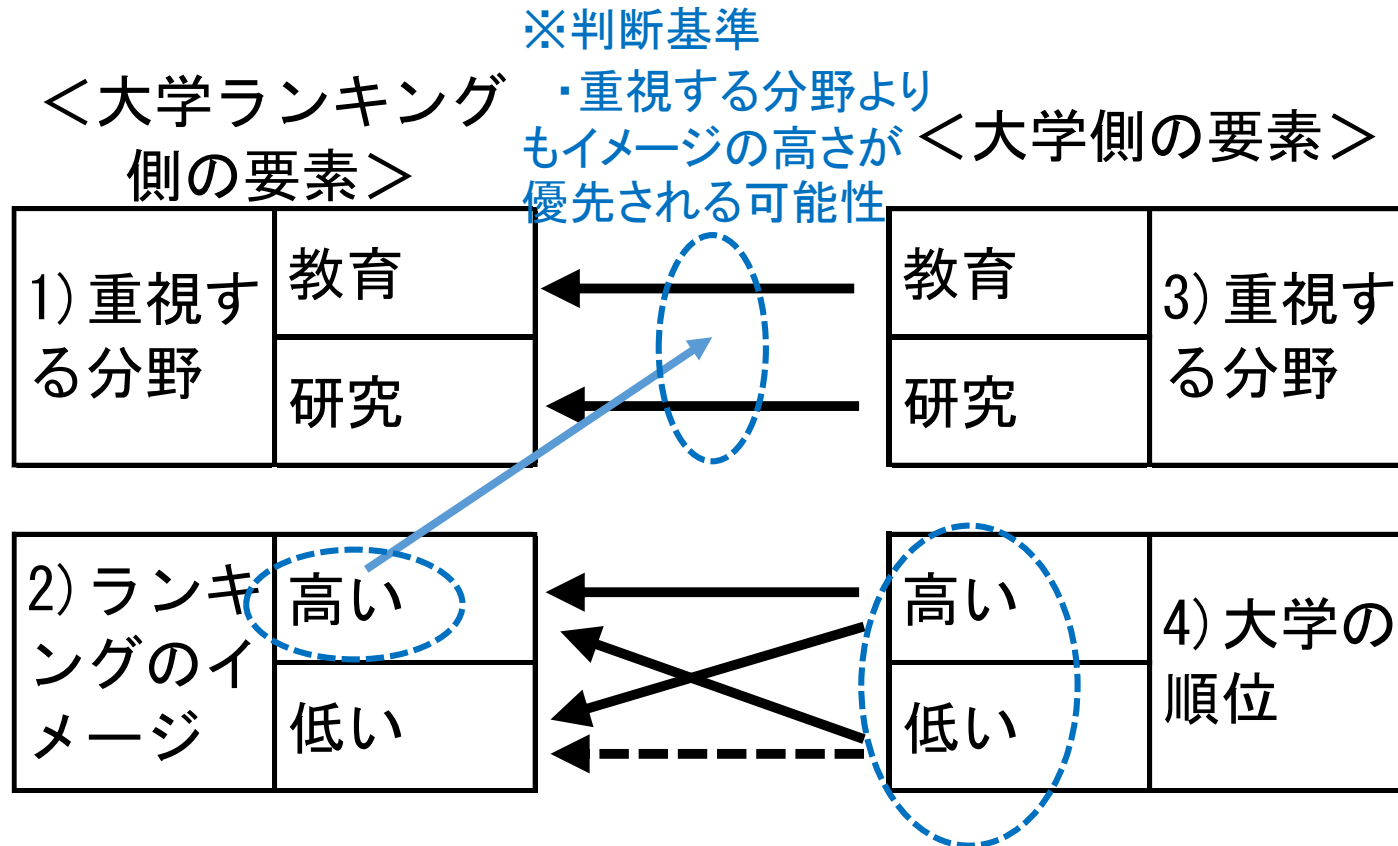


5. THE・WorldとTHE・Japanの比較

③ 順位ごとの掲載率

- ただし、いずれのランキングも、「上位ほど掲載率が高い」という単純な傾向ではない
 - ランキングをRMに活用する際の判断要素・判断基準が大学ごとに異なることが要因の可能性
 - （当然のことだが、）順位の「高さ」の判断基準は、大学・ランキングによって異なる
 - 既に高い評判を得ている大学は、上位の順位でないと「高い」と判断せず、高い評判を得ていない大学は、上位でなくても「高い」と判断する可能性
 - 同じ順位でも、イメージの高いランキングの場合には、「高い」と判断する可能性
- 総合ランキング自体を問題視している可能性
 - 学術研究懇談会（RU11）「世界大学ランキングに対するRU11の見解について」（H28.7.8）
 - 特に、最上位層の大学では、分野別・就職等のテーマ別のランキングや、連携大学のステータスの説明としてのランクインを掲載している事例あり

図2) RMへの活用に影響する要素(再掲)



※判断基準
・大学の既存の評判
・大学の持つランキングのイメージ

6. THE・World, THE・Japanごとの検討

① THE・Worldの傾向

- 多くの大学がランクインした351-400位から1000位+の順位層を比較
- 掲載率は、全体的に私立が高く、順位の低下に伴う低下が少ない
 - 私立の方がステークホルダーへのアピールを重視していることが要因の可能性

図8) THE・World順位別(国立)

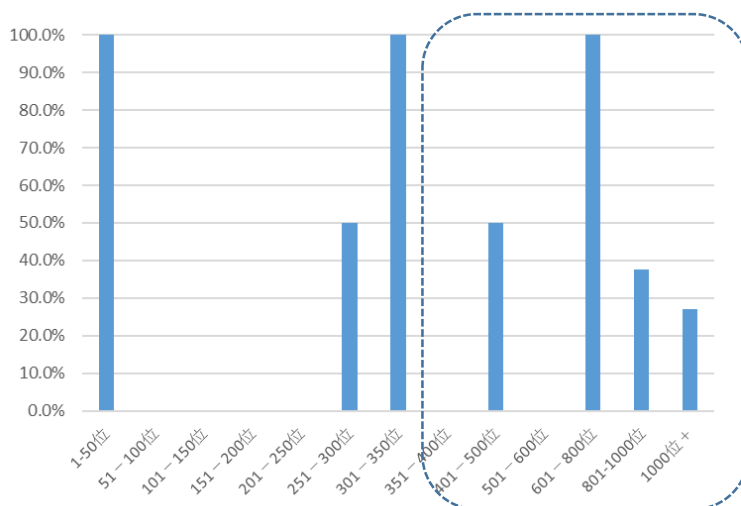
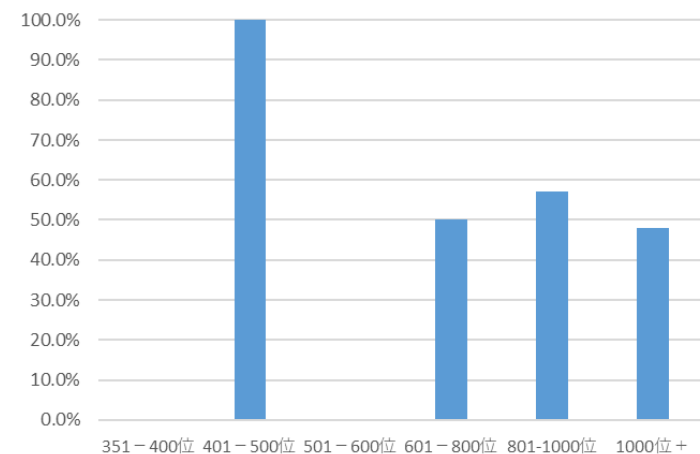


図9) THE・World順位別(私立)



6. THE・World, THE・Japanごとの検討

② THE・Japanの傾向

- 国立は全体的に低い
 - 最上位の大学は掲載率20%程度, 121位以下は掲載率0%
 - 教育中心で, 研究重視の国立はRMに活用し難いことが要因の可能性
- 私立は全体的に高い
 - RMの必要性和, 教育関係企業との共同で作成されたための進路指導への活用の可能性が要因の可能性
- 国立, 私立とも, 41-60位の順位層で落ち込み
 - 高いか低いかの「高さ」の判断の分かれやすい順位層であって, 大学ごとに「高さ」の評価が分かれた可能性

図10) THE・Japan順位別(国立)

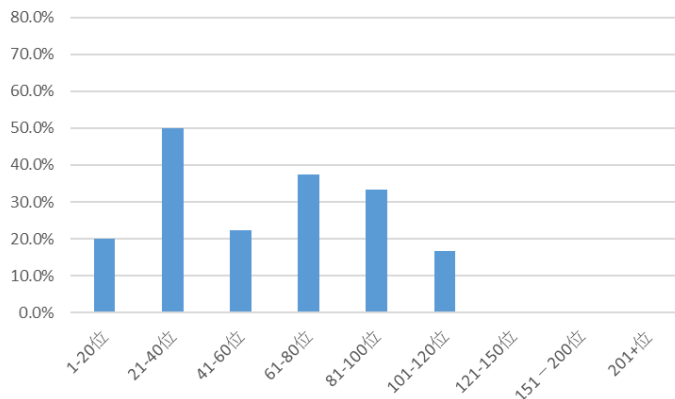
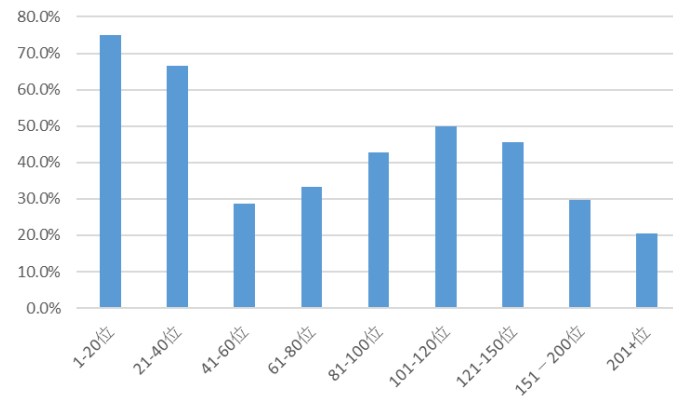


図11) THE・Japan順位別(私立)



7. まとめとおわりに

- ランクインした全ての大学が大学ランキングをRMに活用しているわけではない状況
- 順位等の要素を考慮しつつ，大学ランキングをRMに活用していると推察
 - 順位等の想定した要素の影響について，明らかな傾向は見出しえなかった
- 今後の課題
 - 分野別ランキング，他大学のランクインの事実の掲載
 - 大学ランキングのRMへの活用可能性について検討する必要
 - 大学ランキングの捉え方（ステークホルダー，掲載されていない大学の捉え方）
 - 世界の大学における大学ランキングのRMへの活用状況
- 本研究は科研費（18K02705）の助成を受けたものです

参考文献

- 大石哲也(2019)「W100 Annual Conference 2018参加報告」第8回大学IR集中講習会
- 廣瀬武志(2018)「国際的評判の"代用品"としての世界大学ランキング：大学はなぜレピュテーション・マネジメントを必要とするのか（特集大学ランキングを考える）」『大学マネジメント』13(11), 24-29
- 高田英一・大石哲也(2016)「研究大学におけるレピュテーション・マネジメントのあり方について：IRの観点を中心に」『広報研究』(20), 165-172
- 高田英一・大石哲也・森雅生・関隆宏・小柏香穂理・劉沙紀(2019)「わが国の国立大学におけるレピュテーション・マネジメントに関する意識と取組及びIRの活用の実態－アンケート調査の結果を元に－」日本教育情報学会 第35回年会
- 間淵泰尚・小林雅之・大多和直樹(2002)「市場型大学評価－正当化とセルフ・フィードバックの過程1」『高等教育研究』第5 集
- 小林雅之，曹燕，施佩君(2007)『大総センターものぐらふNo.7 市場型と制度型大学評価の国際比較研究』東京大学大学総合教育研究センター